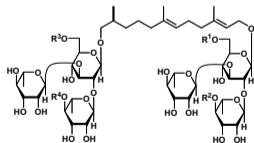


タイ天然薬物 *Sapindus rarak* 果皮の新規セスキテルペン配糖体成分
 森川 敏生¹, 謝 媛媛^{1,3}, ○岡本 将揮¹, 二宮 清文¹, 松田 久司², 浅尾 恭伸²,
 村岡 修¹, 袁 丹³, Yutana PONGPIRIYADACHA⁴, 吉川 雅之² (¹近畿大・薬総研,
²京都薬大, ³瀋陽薬大, ⁴Rajamangala工科大)

【目的】ムクロジ科 (Sapindaceae) 植物 *Sapindus rarak* DC. は、東南アジアに広く分布する植物である。 *S. rarak* の果皮部は、サポニンを多く含んでいることが知られており、タイにおいて石けんやシャンプーとして利用されるとともに去痰、消腫、胃痛、および喉痛などの改善を目的に民間薬として利用されている。我々の研究室では、種々のタイ天然薬物から生活習慣病の予防・改善に寄与する生物活性成分の探索を行っており、これまでに、タイ産 *S. rarak* 果皮 MeOH 抽出エキスに血中中性脂質上昇抑制作用を見出すとともに、その活性成分として種々のサポニンを明らかにしている。¹⁾ 今回、より詳細な成分探索を実施した結果について報告する。

【実験・結果】タイ産 *S. rarak* 果皮を MeOH で熱時抽出し、MeOH 抽出エキス (生薬からの収率 59.8%) を得た。得られた MeOH 抽出エキスを HP-20 カラムに付し、水および MeOH で順次溶出させ、得られた MeOH 溶出部を順相および逆相カラムクロマトグラフィー、次いで HPLC により繰り返し分離精製した結果、新たに 4 種の新規セスキテルペン配糖体 (1—4) を単離・構造決定した。現在、これら含有セスキテルペン配糖体成分などの生物活性評価について検討中である。



	R ¹	R ²	R ³	R ⁴
1	Ac	H	H	H
2	H	Ac	H	H
3	H	H	Ac	H
4	H	H	H	Ac

¹⁾ 日本生薬学会第 55 回年回講演要旨集, 長崎, 2008, p. 62.